

## 担い手の経営のライフステージに応じた支援

 (6) 小菊産地化に向けた実証栽培
JAふくしま未来 (福島県)

新規	継続
○	(平成 年 月)

1 動機(経緯)	<p>飯舘村は東京電力福島第一原発事故で被害を受け、避難指示解除後の営農再開が大きな課題となっています。</p> <p>福島県は避難指示解除後の農地を花卉栽培で再生させることを推奨しており、また、同村はトルコギキョウなどの花卉栽培が盛んな産地であったことから、数人の方がトルコギキョウやリンドウの栽培を再開しました。しかしながら、同村での花卉栽培をさらに拡大し、産地化を進めるためには、品目の拡大や就農者数を増やす必要がありますが、未経験者の方にとって、栽培技術の習得やハウス導入の負担などが障壁となっていました。</p>
2 概要	<p>小菊は、同村ではこれまで栽培されていなかった品目ですが、需要の高さや導入のしやすさから、営農再開に向けた有効な品目です。</p> <p>JAふくしま未来は福島県と共に同村で小菊の実証栽培を開始し、30年度の本格的な出荷開始に向けて、実証栽培で育成や品種の適正を観察しました。</p> <p>小菊は露地栽培のための初期設備への負担が比較的少なく、また、全国有数のブランド産地である福島地区花卉専門部会小菊班による栽培面と販売面のサポートも有るため、初年度から安心して栽培をスタートさせることができる点が魅力となっています。</p> <p>実証実験で栽培した苗は、福島地区花卉専門部会所有の品種で小菊班の班員が育てました。飯舘村の高冷地で3品種を選定し、合計3,000本を3aの畑に定植しました。</p>
3 成果(効果)	<p>被災農業者は、「飯舘村で頑張りたいと思う。村へ戻ってくるのが楽しみ」と話しており、帰村後の営農再開支援につながりました。また、小菊栽培が復興の目玉の一つになり、飯舘地域全域へ広がっていくことも期待されます。</p>
4 今後の予定	<p>同村から福島市内へ避難し営農を休止していた被災農業者は、30年度に飯舘村へ戻り、実証栽培の結果をもとに小菊栽培により営農を再開する予定です。営農再開後についても継続的に支援を実施します。</p>

【定植の様子】

